

第449回鉄鋼流通問題懇談会

2019年7月29日（月）14:30

茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
 - (1) 地区の状況
 - 東京、大阪、愛知、東北、新潟地区概況報告
 - (2) その他地区の概況
 - 鉄流懇7月例会で発表の各地区業況アンケート結果
 - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2019年10月23日（水）14:30～

於：茅場町「鉄鋼会館4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室」

	鋼管	薄板	住友商事グローバルメタルズ	厚板	棒鋼・形鋼	
1. 需給動向 (景況感)	<p>メタルワン</p> <p>(店売り分野) 大型案件の鉄骨条件等は堅調である一方、人手不足の影響で中小の建築条件が少なくなると、特約店の荷動きは低調。特にコラムは、需要が弱く価格も弱含みし始めている。土木関連も4-6月には不要期で有ることに加え、一時は需要をけん引していた鋼管杭もコンクリート杭に需要を奪われていた部分がある。</p> <p>価格動向としては、溶協メーカーはボトム比25円/kgは浸透価格のみとし、さらなる値上げを図っている。一方、問屋の再販価格はボトム比+22-25円/kgを推移している。</p>	<p>2019年5月の薄板 品別動向は、4月比8.6%増の462万トンととなり、6ヶ月連続で増し、月間30万トン近い水増しの輸入が5月の大型船の到着により増加した。在庫は、メーカー別動向は6月4万4千トン、問屋別動向は9万1千トン増の96万4千トン、コイルセンター(前月)前月比1万7千トン増の156万3千トンとなった。過去、10年間の伸び率が最も大きい5月以降の伸びは、7月の伸び率と同じと見られる。自動車の冷却水は、総じて増産も、建築の必要期に加え、人材不足に起因する工期延長もあり、また状況も好転感が強くなり、通行の水準にまで戻りつつある。</p>	<p>5月の全国厚中板在庫は435千トンで前月比13.971トン増、受け入れ量が出荷量を上回った結果、在庫増となった。在庫率は全国ベースでは前月比14.2ポイント上がり256.8%と、適正在庫率と言われる200%を大きく上回っている。特に建築関連の遅れに伴い、建築シヤナーの一段感強い。橋梁・建機は支給材比率が上がってきており、市中材の荷動き低調、店売り別板面格は弱含みとなっている。</p>	<p>棒鋼 需要は停滞基調を継続している。昨年まで受注してきた契約の受渡も有り、関東地区メーカーの生産水準は一定水準を確保してきていたが、足元は端境期の様相。秋から年末以降、首都圏の大型再開案件に関連した鉄骨需要が注目を集めている。</p>	<p>棒鋼 需要は停滞基調を継続している。昨年まで受注してきた契約の受渡も有り、関東地区メーカーの生産水準は一定水準を確保してきていたが、足元は端境期の様相。秋から年末以降、首都圏の大型再開案件に関連した鉄骨需要が注目を集めている。</p>	
2. 需要産業動向	<p>(建築・土木) 4月の新設住宅着工量は前年同月比5.7%増の7万9,889戸で2ヶ月連続減少、内訳は、新築は16.7%減の2万9,951戸、持ち家は9.2%増の2万5,936戸、分譲住宅は6.0%減の2万3,911戸となった。</p> <p>(自動車) 4月の日本メーカーの国内出荷は前年同月比5.0%増の77万4,008戸。トヨタ自動車は、北米市場の新型『カローラ』などが主力で4ヶ月連続で増し、マツダも新型『マツダ3』の受け入れ調。一方で、日産から経済統合の再調整を打診されている日産自動車は北米や欧州向けが不振。また、逆の検査不正問題の発生を引くスズキも生産ラインの見直しなどでペースを落としている。</p> <p>(建設) 4月の建築設備品出荷は前年同月比3.7%増の2万7,300戸、7ヶ月連続の増し。10月期高付ガスマシンの対比が引き金となった。時の動向が弱まり、需要は目下低調である。一方、海外向けはインフラ投資や電力設備が好調で、北米や中国向けは伸びている。また、海外向けはインフラ投資や電力設備が好調で、北米や中国向けは伸びている。また、海外向けはインフラ投資や電力設備が好調で、北米や中国向けは伸びている。</p>	<p>5月の自動車向け車種別在庫(輸入を除く)は、39万6千トン(前月同月比6.5%増)と2ヶ月連続の前年同月比でプラスとなっている。乗用車は30万2千トン(前月同月比0.8%増)、トラックは6万6千トン(前月同月比1.8%増)となった。5月の12ヶ月連続の車種別在庫は、消費財メーカー、高付設備品に対する消費財メーカーは前年同月比で6.5%増となった。消費財メーカーは前年同月比で6.5%増となった。消費財メーカーは前年同月比で6.5%増となった。消費財メーカーは前年同月比で6.5%増となった。</p>	<p>造船の6月月末輸出船隻手待ち工数量は2,337万GTで、5月比2%減と3ヶ月連続の減少となった。LNG運搬船を中心に韓国造船メーカーの積極受注の影響もあって、日本造船メーカーは依然苦戦中。建設機械の5月の出荷金額は700億(前年同月比6.2%増)、外需は1,349億(同0.4%減)、合計2,049億円で前年同月比1.8%増となった。8ヶ月連続の前年同月比増ではあるが、増加率は縮小されてきている。</p>	<p>棒鋼 不動産経済研究所による首都圏マンション発売戸数に、2019年1-6月は13千戸(前年同月比▲2千戸)と依然、低水準にて推移。形鋼 建築に関し、2018年度の鉄骨需要量(推定)は510万トン前後と前年度(推定520万トン)比▲2%の水準で推移、又、2019年度は前年度比横這いから微減の水準で推移の見通し。大手FABの稼働は、足元は端境期にあるが、年末以降からを目標に来年にかけて、大型再開案件や物流倉庫を中心とした需要をもとに、再度高い水準にて推移することが予想される。</p>	<p>棒鋼 不動産経済研究所による首都圏マンション発売戸数に、2019年1-6月は13千戸(前年同月比▲2千戸)と依然、低水準にて推移。形鋼 建築に関し、2018年度の鉄骨需要量(推定)は510万トン前後と前年度(推定520万トン)比▲2%の水準で推移、又、2019年度は前年度比横這いから微減の水準で推移の見通し。大手FABの稼働は、足元は端境期にあるが、年末以降からを目標に来年にかけて、大型再開案件や物流倉庫を中心とした需要をもとに、再度高い水準にて推移することが予想される。</p>	
3. 輸出入動向	<p>2019年5月度鋼管輸出入量 継目無鋼管：2万9,945トン (前月比▲14.9%) 溶接継鋼管：3万7,934トン (前月比▲11.5%)</p> <p>2019年5月度鋼管輸入量 継目無鋼管：1,466トン (前月比▲7.1%) 溶接継鋼管：1万3,143トン (前月比▲0.8%)</p>	<p>5月の普通鋼材輸入量は41.0万トン(前年同月比2.0%減)と5ヶ月振りの減少となった。主要品別では、熱延鋼材が18万1千トン(前年同月比2.4%減)と5ヶ月ぶりの減少、冷延鋼材が16万9千トン(前年同月比2.3%減)と8ヶ月ぶり、厚板は3万9千トン(前年同月比14.4%減)と2ヶ月ぶりの減少となった。一方、亜鉛メッキ鋼材が9.0万トン(前年同月比22.6%増)と5ヶ月連続の増加となった。</p> <p>5月の普通鋼材輸出量は207万6千トン(前年同月比3.7%増)と7ヶ月ぶりの増加となった。主要品別では、熱延鋼材が107万2千トン(前年同月比19.0%増)と2ヶ月連続の増加した。一方、厚板は22万1千トン(前年同月比6.8%増)と3ヶ月連続、冷延鋼材が18万8千トン(前年同月比13.1%減)と2ヶ月ぶり、亜鉛メッキ鋼材が18万4千トン(前年同月比15.4%減)と7ヶ月連続の減少となっている。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比6.2千トン減の89千トン。中国からの入着が3.2千トン減、韓国からの入着が3.7千トン減となった。</p> <p>5月の輸出船積実績は前月比48千トン増の221千トン。中国向けで25千トン増となった。</p>	<p>5月の輸入通関実績は前月比6.2千トン減の89千トン。中国からの入着が3.2千トン減、韓国からの入着が3.7千トン減となった。</p> <p>5月の輸出船積実績は前月比48千トン増の221千トン。中国向けで25千トン増となった。</p>	<p>2019年1-5月の小形棒鋼輸出入量は21千トン/月と前年同月比▲3千トン/月、輸入量は5千トン/月と前年同月比▲3千トン/月とのレベルで推移。</p> <p>2019年1-5月のH形鋼輸出入量は17千トン/月と前年同月比横這い、輸入量は8千トン/月と前年同月比▲2千トン/月とのレベルで推移。</p>	
4. 海外市場動向	<p><油井管>最大の市場である米国の下落基調が続き、悲観的な見方も多いが、堅調な中東に加え、二数社は低調であったアフリカ地域等での掘削活動が戻りつつあり、世界的には底堅い状況となっている。</p> <p><ラインパイプ>19年需要の大型のラインパイププロジェクトが少なからず、足元の大型管に関しでは欧州・日本・米国のTier 1ミルのキャパが比較的好調な状況(ただし、一部大型管ミルを閉鎖する影響あり)。20年以降は欧州・欧州・中東で大型案件が動く見込みであり需要が増える為、大型管ミルもタイトになってくることを予想される。</p>	<p>中国ミルは米中貿易戦争のあおりを受け内需減り、一方で鉄鉱石やその他の製造コストは上昇しており、6月末まで価格転嫁を試みている。市場の反応は冷ややかである。</p> <p>アジア全域で需要が良い。中国は、唯一堅調であった日本も失速しており、各国ミルは輸出で数量を埋めたいスタンスではあるが、年内の回復は難しいとの見通しである。</p>	<p>中国ミルは米中貿易戦争のあおりを受け内需減り、一方で鉄鉱石やその他の製造コストは上昇しており、6月末まで価格転嫁を試みている。市場の反応は冷ややかである。</p> <p>アジア全域で需要が良い。中国は、唯一堅調であった日本も失速しており、各国ミルは輸出で数量を埋めたいスタンスではあるが、年内の回復は難しいとの見通しである。</p>	<p>中国ミルは米中貿易戦争のあおりを受け内需減り、一方で鉄鉱石やその他の製造コストは上昇しており、6月末まで価格転嫁を試みている。市場の反応は冷ややかである。</p> <p>アジア全域で需要が良い。中国は、唯一堅調であった日本も失速しており、各国ミルは輸出で数量を埋めたいスタンスではあるが、年内の回復は難しいとの見通しである。</p>	<p>中国ミルは米中貿易戦争のあおりを受け内需減り、一方で鉄鉱石やその他の製造コストは上昇しており、6月末まで価格転嫁を試みている。市場の反応は冷ややかである。</p> <p>アジア全域で需要が良い。中国は、唯一堅調であった日本も失速しており、各国ミルは輸出で数量を埋めたいスタンスではあるが、年内の回復は難しいとの見通しである。</p>	

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>(国内) ・日本経済は緩やかな回復基調が続いているが、6月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス7と前回3月調査から▲5ポイントの2期連続悪化となった。米中貿易摩擦の激化等、世界経済の先行き不透明感による中国の景況減速が懸念材料となり、生産用機械等を中心に今後の業況見通しが悪化している。</p> <p>19年度の設備投資計画は大企業では前年度比＋7.4%と都市開発関連や省力化投資が投資意欲を下支えしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家計部門については、5月の小売業販売額が大型連休での個人消費増もあって19ヶ月連続前年同月比でプラスとなり、雇用環境も企業の手不足感を継続しており、堅調となっている。 ・部門別活動状況は、製造業部門は5月の自動車生産が前年同月比2ヶ月連続の増加、5月の機械受注実績は4ヶ月ぶりの前月比減少となった。また、建設部門は大型再開発案件や公共土木向けなどで需要は安定的に推移しているものの、中小建築案件の一部では人手不足や材料調達ネックによる工期遅れが継続して見られる。 <p>(海外) ・中国では政府が減税や公共投資拡大等での景気下支えを図るも、内外需の低迷から輸出入や工業生産で回復が遅れている。米中貿易摩擦の影響は未だ先行きが不透明。ASEAN諸国は内需堅調も、通商問題で外需の減影響により輸出が減速。欧州では個人消費や雇用環境は堅調に推移も、依然として製造業で停滞感が漂う。</p> <p><国内鉄鋼需給></p> <p>(生産) ・19年6月の粗鋼生産は前年同月比増（＋0.4%）の879万tで10ヶ月ぶりの増加。</p> <p>(出荷) ・5月の普通鋼国内向け出荷は374万トン（前年同月比▲4.5%）で2ヶ月連続の減少。一方、輸出向け出荷は194万トン（同＋4.0%）と7ヶ月ぶりの増加。</p> <p>(在庫) ・5月末の普通鋼材国内向け在庫は609万トン（前月比＋6万トン）、2ヶ月連続で増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月末の薄板3品在庫は462万トン（同＋9万トン）、6ヶ月連続で増加。 ・5月末の厚板シャワー在庫は44万トン（同＋1万トン）。5ヶ月連続で増加。 <p>[建築] ・5月の新設住宅着工戸数は7.3万戸（前年同月比▲9%）で2ヶ月連続の減少。持家が増加し、貸家・分譲が減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非住宅着工床面積は417万㎡（同▲1%）で4ヶ月連続の減少。商業・サービス業用は増も、鉱工業等で減。 <p>[自動車] ・6月の国内販売は41.5万台（前年同月比▲1%）で3ヶ月ぶりの減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の完成車輸出は35.5万台（同＋3%）で3ヶ月ぶりの増加。北米、アジア向けで増加。 ・5月の四輪生産は79.2万台（同＋9%）で2ヶ月連続の増加。 <p>[造船] ・6月の新造船受注量は71万GT（前年同月比＋33%）の受注。19年6月末の手持工事は2,337万GT（同▲8%）と減少継続。</p>
2. 需要産業動向	<p>[輸出]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の全鉄鋼輸出は304万トン（前年同月比▲6%）で7ヶ月連続の減少。米国、ASEAN向けで減少。 <p>[輸入]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は46万トン（前年同月比▲3%）で6ヶ月ぶりの減少。韓国は5ヶ月ぶりの減少（同▲4%）、中国は9ヶ月連続増（同＋20%）、台湾は4ヶ月ぶりの減少（▲24%）。
3. 輸出入動向	<ul style="list-style-type: none"> ・5月の世界粗鋼生産は、中国や米国で前年同月比増加し、1億6,274万トン（前年同月比＋5%）となった。 ・6月の中国粗鋼生産は8,753万トン（前年同月比＋10%）、日当りは過去最高の292万トン。 ・6月の中国鋼材輸出は531万トン（前年同月比▲24%）、3ヶ月連続で前年同月比減。前月比では2ヶ月連続減。
4. 海外市場動向	